

全校研究



「国語科における学びを広げる姿を目指した授業づくり」

(1年次/2年計画)

I 主題設定理由

(1) 過年度の研究課題から

令和5、6年度は研究主題を「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿を目指した国語の授業づくり」として全校研究に取り組んだ。全校研究アンケートの結果、課題として「児童生徒一人一人の障害や学習状況に応じて国語科の学びを広げる姿が不十分であること」が挙げられた。学びを広げる姿、すなわち「国語科における資質・能力や言語能力を高め、他の学習場面で生かす力」が不足した要因として、特に次の①、②が考えられる。

①国語科や各教科等を合わせた指導での国語科の指導内容の欠落及び指導量の不足

②各教科等を合わせた指導における国語科の目標や内容、評価の視点の不明確さによる学習効果の不足

①に関して、「各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の『内容』に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。」(学習指導要領 P64)とされている(なお、「内容」は学習指導要領の第2章以下に、学部ごと、教科・段階別に目標とともに示されている)。本研究では、特に国語科における知識・技能、思考・判断・表現(聞く・話す・書く・読む)の「内容」は、そのまま単元目標となり得るものであり、他の指導の形態での取組も含めて偏りなく計画的に取り扱うことを重視する。

②に関して、学習指導要領解説各教科等編では「各教科等を合わせた指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てる必要がある。」(P31)としている。また、加藤(2024)は、各教科等を合わせた指導の指導計画について、「現在行われている活動から『何の教科を指導しているか』という考えだけでは、教科を系統的・計画的に指導できない。学習活動もちろん大事であるが、前提として学習する『内容』が明らかになっていることが必要である。」と述べている。そこで、本研究では国語科及び各教科等を合わせた指導において「学習指導要領の『内容』に基づく授業づくり」を重視し、学習指導要領の「内容」を基に各教科等の目標や具体的な指導内容、学習活動を検討していく。

(2) 学習指導要領から

① 学びを広げるために

特別支援学校小学部学習指導要領の知的障害教育の各教科の第2「指導計画の作成と各教科全体にわたる内容の取扱い」では、次の記載がされている(中学部・高等部はこれに準じる)。

・個々の児童の実態に即して、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫するものとする。その際、各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにし、各教科等の内容間の関連を十分に図るよう配慮するものとする。

本研究においても、国語科における児童生徒一人一人の実態に応じて育成を目指す資質・能力を明確にしたり、各教科等の内容を関連付けて指導計画を作成したりするなど、他の学習や生活場面において学びを活用する、学びを広げる姿を育みたい。

② 国語科の指導の重要性から

さらに学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力である言語能力の育成を重視している。特に「言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きく」、「言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ、教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取り組みが求められる」としている。これらは国語科を重視する本研究の方向性と合致している。

以上により、本研究主題を設定した。

2 主題「学びを広げる姿」の捉え

- ・児童生徒一人一人が既習の知識・技能を活用しながら学習活動に取り組み、自ら思考・判断・表現する。
- ・発達段階や年齢、国語科の系統性を考慮し、もう少しで達成できる新しい学びを習得する。
- ・既習内容や自分の経験などで学んだことを他の学習や生活場面でも活用する。

3 研究仮説

国語科や各教科等を合わせた指導の授業において、学習指導要領の「内容」及び重点事項に基づき、次の柱1～4の手立てを講じることで、「国語科における学びを広げる姿」を育てることができるであろう。

【柱1】学習指導要領の「内容」に基づいた学習状況の把握

【柱2】教科等横断的な視点による指導計画の作成

【柱3】学習指導要領の「内容」に基づく国語科及び各教科等を合わせた指導における授業づくり・授業実践

【柱4】個別の達成状況の明確化

4 研究計画

次の表1のように研究を進めた。

表1 研究計画

期 日	会 名	内 容		
		小学部	中学部	高等部
4月18日		●全校授業研、学部授業研の授業者、日時の選定		
4月23日	全校研究会①	●全校研究の概要 ➤ 4/24の学部研①の内容を実施		
4月24日	学部研①	●学習指導要領の「内容」に基づいた学習状況の把握 ➤ 「観点別学習評価表」の活用		
5月16日	学部研②	●教科等横断的な視点による指導計画の作成 ① 国語科の年間指導計画の作成 ➤ 「学習指導要領・国語科の『内容』に基づく単元配列表」の活用		
6月11日	学部研③	●教科等横断的な視点による指導計画の作成 ② 各教科等を合わせた指導の年間指導計画の作成 ➤ 「学習指導要領・国語科の『内容』に基づく単元配列表」の活用		
6月24日	授業づくり研修会	●教科等横断的な視点による指導計画の作成 ●講話「教科等横断的な視点による指導計画作成のポイント」		

		●グループ協議「学習指導要領・国語科の『内容』に基づく単元配列表の検討」 ●指導助言		
7月25日	学部研④	●単元計画①（学部授業研究会）の検討	●授業を見合う会 VTR紹介①（重点事項の確認）	●授業を見合う会 VTR紹介①（重点事項の確認）
8月21日	学部研⑤	●学部授業研究会	●単元計画①（学部授業研究会）の検討	●単元計画①（全校授業研究会）の検討 ●模擬授業
9月24日	学部研⑥	●授業を見合う会 VTR紹介①（重点事項の確認）	●学部授業研究会	●授業を見合う会 VTR紹介②（重点事項の確認）
9月24日	全校授業研究会①			●高等部授業提示
10月23日	学部研⑦	●授業を見合う会 VTR紹介②（重点事項の確認）	●単元計画②（全校授業研究会）の検討 ●模擬授業 ※日程調整	●単元計画②（学部授業研究会）の検討
11月5日	全校授業研究会②		● 中学部授業提示	
11月20日	学部研⑧	●単元計画②（全校授業研究会）の検討 ●模擬授業	●授業を見合う会 VTR紹介②（重点事項の確認）	●学部授業研究会
11月27日	全校授業研究会③	●小学部授業提示		
12月18日	学部研⑨	●研究紀要「せんぼく」の執筆分担 ●学部授業研究会、全校授業研究会における単元評価（児童生徒の変容、重点事項の有効性）		
1月9日	授業づくり研修会	●授業づくりプロジェクト・授業づくり研修会 ➢ 高等部国語科 グループ授業提示		
1月26日	学部研⑩	●研究紀要「せんぼく」の読み合わせ、加除修正		
2月25日	全校研究会②	●各学部の研究、全校研究について ●指導内容確認表及び学習指導要領を活用した次年度への課題整理		

5 研究内容

主に各学部でのグループ協議を通して、次の柱1～柱4について検討・改善を行った。

(1) 【柱1】学習指導要領の「内容」に基づいた学習状況の把握

① 学習状況の把握

特別支援学校小学部用教科書（知的障害者用）及び中学部用教科書の解説書を活用しながら学習指導要領・国語科の「内容」が示す具体的な指導内容を確認し、理解を深めた。また、「内容」に基づいて作成された「観点別学習評価表」（資料1）を活用し児童生徒の学習状況を次の◎、○、△等でチェックした。

学習状況の達成レベルの例

◎：完全に達成しており、学習や生活の中で安定して関連する行動が観察される。

○：ほぼ達成されており、学習や生活の中で概ね関連する行動が観察される。

△：一部達成している、または支援を要する、環境の調整により行動が観察される。

□：全く達成されていない。

② 学習指導要領・国語科の「内容」を取り扱う指導の形態の選定

障害の状態や生活での活用等を考慮し、学習指導要領・国語科の「内容」を取り扱う指導の形態を選定して「観点別学習評価表」に記載し、個別の指導計画及び年間指導計画の作成につなげた。

(2) 【柱2】教科等横断的な視点による指導計画の作成

① 国語科の年間指導計画の作成

個々の児童生徒の学習状況を考慮し、特別支援学校学習指導要領解説（各教科等編）、特別支援学校小学部用教科書（知的障害者用）の解説書等を活用して、国語科の年間単元・題材を設定した。「学習指導要領・国語科の『内容』に基づく単元配列表」（資料2）に①単元名、②指導内容を簡潔に記載し、年間指導計画に反映させた。

★留意事項 少しがんばればできそうなこと、生活や社会で必要なこと等を重視しながら、児童生徒の実態に応じて、今できている事柄について単元や題材を変えるなど取り組みの幅を広げることも考慮する。

② 各教科等を合わせた指導の年間指導計画の作成

学習指導要領・国語科の「内容」に対応させて生活単元学習、作業学習、日常生活の指導等の①単元名、②指導内容を記載した「学習指導要領・国語科の『内容』に基づく単元配列表」（資料2）を作成し、年間指導計画に反映させた。

★留意事項 学習指導要領・国語科の「内容」は国語科だけでなく、生活単元学習等の他の指導の形態も含めて偏りなく計画的に取り扱う。

③ 国語科及び各教科等を合わせた指導の単元計画の設定

授業提示の対象となる単元計画を検討する。なお、指導主事計画訪問及び授業を見合う会では国語科、学部授業研究会及び全校授業研究会では各教科等を合わせた指導（高等部：作業学習、中学部：生活単元学習、小学部：生活単元学習）の授業を提示した。

★留意事項 学習指導要領・国語科の「内容」に基づき単元計画を設定し、国語科で学んだ「内容」を、各教科等を合わせた指導で再度取り扱うようにするなど、相互の関連付けを図るようにする。

(3) 【柱3】学習指導要領の「内容」に基づく国語科及び各教科等を合わせた指導における授業づくり・授業実践

学習指導要領の「内容」に基づいて次のア～ウの整合性を重視した授業づくりを行った。

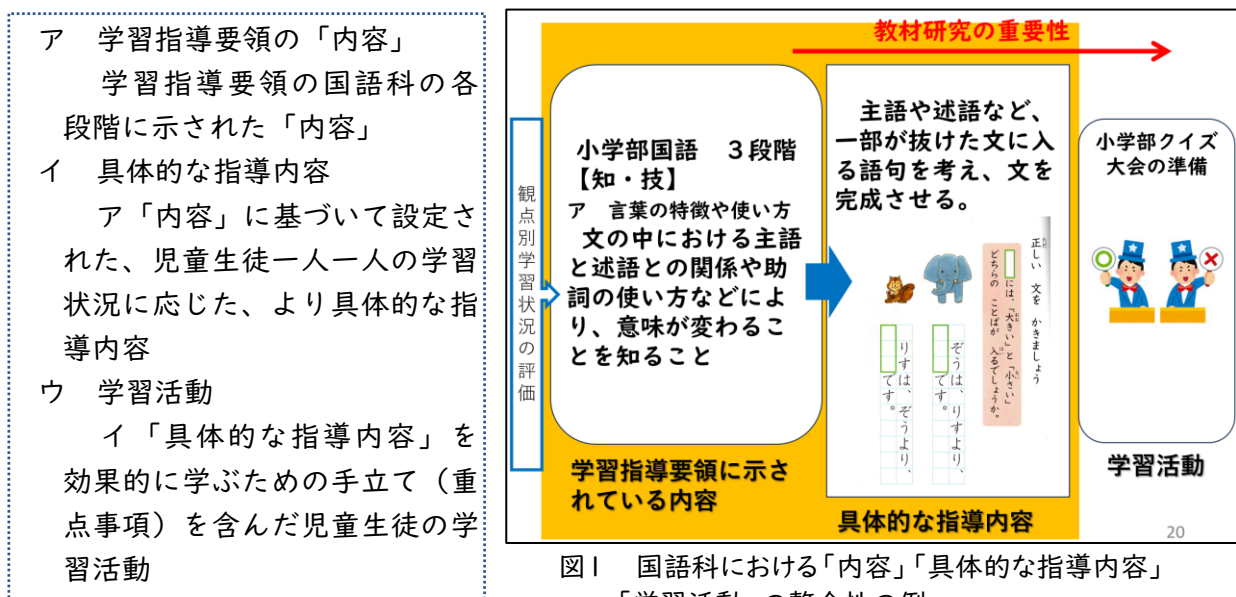


図1 国語科における「内容」「具体的な指導内容」「学習活動」の整合性の例

次に、図1、2に上記の国語科のア～ウの整合性の例及び各教科等を合わせた指導の授業づくりのイメージを示す。

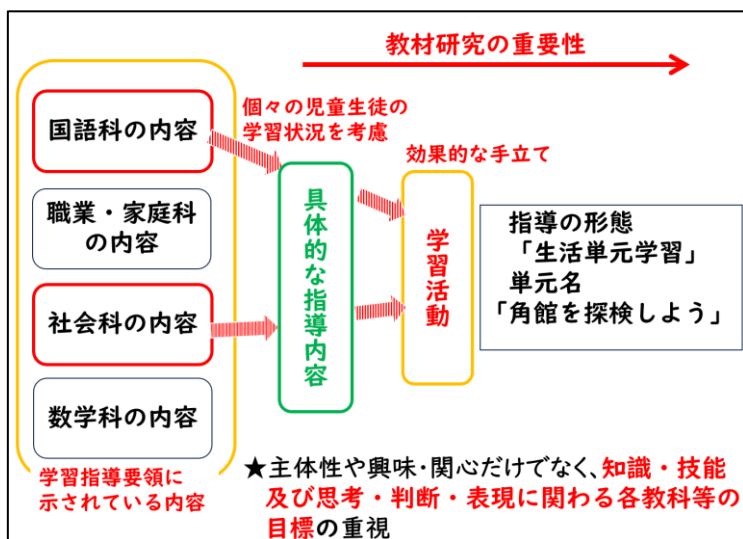


図2 各教科等を合わせた指導における授業づくりのイメージ

★**留意事項** 各教科等を合わせた指導において、学習指導要領の国語科を含む複数の教科の「内容」に基づいて具体的な指導内容を設定する。また、学習活動の設定の際は、昨年度の重点事項「適切な言語環境づくり」「具体的に考える場面の設定と工夫」（資料3）に留意し、授業づくり・授業実践を進める。

(4) 【柱4】 個別の達成状況の明確化

学習指導要領を根拠にしていることが分かるように単元計画設定の際に、「観点別学習評価表」（≒学習指導要領の「内容」）から選定し評価規準（表2）に転記した。また、単元終了後、評価規準に基づいて「評価（◎、○、△）」及び「評価につながる具体的な様子」（表3）を記載して、個別の達成状況を評価した。

表2 評価規準

対象児童	教科・段階	領域	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ態度
(例) A(6年) B(6年) C(4年)	国語小3	書くこと	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書いている。	・見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書いている。	・見聞きしたことや経験したことを簡単な語句や文章で表すことに関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。
A(6年) B(6年) C(4年)	生活小3	役割	・集団活動には様々な役割があることや役割を果たすことの意義を知っている。	・集団活動における様々な役割を意識しながら、活動の見通しをもって実践し、考えたことを表現している。	・積極的に様々な集団活動に参加し、活動の準備や片付けを含み、役割を主体的に果たそうとしている。

表3 個別の達成状況

児童名	教科・段階	知・技	思判表	学・人	評価につながる具体的な様子
(例) A(6年)	国語小3	○	○	◎	(例) 司会や振り返りの報告の担当を繰り返したことで、自信をもって話すことが増えた。言葉掛けにより姿勢も意識して発表することが増えた。

	生活小3	○	◎	◎	(例) 始めの会や終わりの会の会次第を提示し、繰り返し活動に取り組むことで、司会進行や振り返りでの発表活動等に積極的に取り組んだ。司会進行では司会原稿を正しく読みながら、地域の方へ伝わるように意識して進めることができた。
--	------	---	---	---	--

6 研究の実践と評価

(1) 全校授業研究会及び学部授業研究会の実施

各教科等を合わせた指導（高等部：作業学習、中学部：生活単元学習、小学部：生活単元学習）を提示授業とした学部授業研究会、全校授業研究会を1回ずつ（計6回）行った。全校授業研究会では、指導助言者から授業改善につながる助言を受けた（表4）。

表4 全校授業研究会 一覧

実施日	学部	学年・単元名		指導助言者
9月26日	高等部	1~3年	販売会に向けて～市立角館総合病院での販売⑤～	秋田大学教育文化学部 教授 藤井 慶博 氏
11月5日	中学部	1・2年	よろこんでもらおうプロジェクト～ピザを作って伝えよう③～	大仙市立太田東小学校 校長 櫻田 武 氏
11月27日	小学部	4・5年	たのしいがっこうをつくろう～11、12月のかざり～	大曲支援学校 教諭(兼)教育専門監 菅原咲希子 氏

(2) 授業を見合う会の実施

次のように国語科の授業提示及び授業参観、授業研究会を行った。

① 授業者

ア 学部授業研究会、全校授業研究会の授業者以外の国語科を担当する授業者が7月～12月に授業を提示する。

イ 授業者は、「単元名」「評価規準」「授業実践（本時の目標、適切な言語環境づくり、具体的に考える場面設定と工夫、学んだことの活用場面）」について事前に「授業を見合う会の記録」に簡潔に記述し、参観者に配付し、授業を提示する（資料4参照）。

ウ 学部研究会で授業 VTR を紹介し、自己評価及び参観者からの意見（成果、課題・改善案）を「授業を見合う会の記録」（資料5）にまとめる。

② 参観者

ア. 参観者は短時間でも提示授業を参観する。（各学部は参観体制を調整する。）

イ. 重点事項の有効性について評価し、ロイロノート共有ノートのデータに記述する。

(3) 授業づくり研修会の実施

6月には授業づくり研修会として大仙市立太田東小学校校長櫻田武氏による講話「教科等横断的な視点による指導計画作成のポイント」を受け、グループ協議「学習指導要領・国語科の『内容』に基づく単元配列表の検討」を行った。また、12月には授業づくりプロジェクトの高等部国語科の授業を提示、参観し、1月に授業研究会を行った。

(4) 単元の評価

学部研究会で各教科等を合わせた指導（高等部：作業学習、中学部：生活単元学習、小学部：生活単元学習）国語科の提示授業の単元において次の事項を評価した。

① 観点別学習評価表を活用した個別の達成状況の評価と授業改善

② 授業づくりの重点事項（適切な言語環境づくり、具体的に考える場面の設定と工夫）の有効性

(5) 全校研究アンケートの実施

次の研究の柱1～4に関わる研究実践及び「国語科における学びを広げる姿」について総合的に評価した。(資料6参照)

【柱1】学習指導要領の「内容」に基づいた学習状況の把握

【柱2】教科等横断的な視点による指導計画の作成

【柱3】学習指導要領の「内容」に基づく国語科及び各教科等を合わせた指導における授業づくり・授業実践

【柱4】個別の達成状況の明確化

7 全校研究における成果と課題

(1) 成果

① 各教科等を合わせた指導での国語科の内容の明確化

学習指導要領の国語科の「内容」に関連付けて単元計画を作成したり、国語科で学んだ「内容」を再度、各教科等を合わせた指導で取り扱うなど相互の関連付けをしたりすることで、授業研究会で授業提示した各教科等を合わせた指導において、国語科の内容を意図的に扱うことができた。例えば、作業学習製品のお客様への説明及び道具の取扱いの注意事項の説明(高等部)や発表活動でのスライド作成(中学部)、聞く・話す力を重視した振り返り発表(小学部)など、各場面で育成すべき資質・能力を教師間で事前に共通理解して授業を展開することができた。

これにより、学習指導要領の「内容」に基づいた一貫性のある国語科の指導が進められ、児童生徒の「聞く・話す・読む・書く」の言語能力の向上を図ることができたと考える。

② 言語活動の設定による相手意識や言語能力の向上

単元において「友達同士で発表して意見を出し合う(小学部)」「下級生にピザのことを伝える(中学部)」「お客様へ作業学習製品を説明する(高等部)」などの児童生徒の生活年齢や実態に合わせて言語活動を設定し、効果的な手立てを講じたり繰り返し実践したりしたことで、「相手意識」を高め、言語能力の育成を図ることができた。また、聞く力の育成及び場面や相手に応じた適切な言葉遣い、表現力や語彙の拡充など表現力の向上にもつながった。

(2) 課題

① 国語科と各教科等を合わせた指導との関連付け

研究アンケートでは、単元配列表は国語科と各教科等との関連を整理する上で有効である一方、作成後に十分活用できていないという課題が挙げられた。また、途中で見直す機会が少なく、評価や授業改善につなげられなかったという意見もあった。

学部研究会等で児童生徒の学習状況を共有し、定期的に計画を振り返る時間を設定するとともに、「どの場面でどんな力を重点的に育てるのか」を精査し、指導の重点化を図る必要がある。また、内容に応じて各教科等合わせた指導(体験)でまず活用し、その後に「国語科(整理・学習)」で深め、再び各教科等を合わせた指導で実践するなど、国語科と各教科等を合わせた指導との間を往還する柔軟な計画づくりが求められる。

② 系統的な国語科の指導

本校の児童生徒は、平仮名の特殊音表記の習得等の文字の読み書きの基礎、語彙の拡充や文・文章の構成など、「読む・書く」に関わる課題をもつ。そのため、国語科での教材研究を大切にされた系統的な指導をさらに充実させる必要がある。これらの国語科で学んだ基礎的な知識や技能は、各教科等を合わせた指導の実践場面で実際に活用することで定着する。指

導時数の確保や学習グループ編制の検討など、指導体制の充実を図るとともに、国語科の授業と各教科等を合わせた指導の授業がより効果的につながる仕組みづくりが必要である。

8 参考文献

- (1) 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編(小学部、中学部)」、2018、文部科学省
- (2) 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部、中学部)」、2018、文部科学省
- (3) 「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」、2020、文部科学省
- (4) 「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究」、2021、国立特別支援教育総合研究所
- (5) 「児童・生徒の資質・能力を育むための知的障害教育 の考え方 ～指導と評価の一体化を踏まえて～」、2024、加藤宏昭、令和6年度秋田県立能代支援学校公開研究会講演
- (6) 「観点別学習評価表(学習の履歴シート)」、2024、令和6年度秋田県立能代支援学校公開研究会資料